



この子を救う。未来を救う。



ありがとう!
30th
Anniversary



特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
2017年度 年次報告書

2018年3月発行
発行 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
TEL: 03-5334-5350(代表) FAX: 03-5334-5359
HP: www.worldvision.jp
郵便振替 00130-6-254059

当団体は認定NPO法人です。皆さまからのご寄付は寄付金控除等の対象となり、税制優遇措置を受けられます。
本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。



この子を救う。未来を救う。



ありがとう!

30th
Anniversary
つながろう、
子どもたちのために

ワールド・ビジョン・ジャパン 2017年度

年次報告書

World Vision Japan Annual Report 2017
2016年10月 - 2017年9月

ごあいさつ

心からの感謝とともに、2017年度の年次報告書をお届けいたします。ワールド・ビジョン・ジャパンは、2017年10月に30周年を迎えることができました。設立から30年を経て、約6万人の皆さまのご支援によって30カ国で支援を展開するまでに成長させていただき、多くの子どもたちに希望を届けています。

一方で、世界の状況は激しく変化し続けています。2017年、シリアや南スーダン、ミャンマーから逃れて国境を越える難民のニュースは日本でも大きく報じられました。10年以上も減少が続いていた世界の飢餓人口が再び増加に転じたとの発表もありました。貧困、紛争、災害。世界の問題は複雑に絡み合っており、最も弱い立場にある子どもたちの健やかな成長を妨げています。

私たちは、活動を支えてくださっている皆さまへの感謝を心に刻みつつ、すべての子どもが“豊かないのち”を生きられる世界を目指し、決意も新たに挑戦を続けてまいります。今後とも、皆さまの尊いご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事長

榊原 寛



数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン	03
2017年度 活動マップ	05
チャイルド・スポンサーシップ	07
募金や他団体との連携による事業 (母子保健、水・食糧支援、難民支援、国内支援)	13
アドボカシー	18
企業・団体との連携	19
皆さまとともに	21
新事務局長 木内真理子からのメッセージ	23
2017年度 会計報告	24
2017年度 支援事業一覧	27
ワールド・ビジョンについて	29

これまでも、これからも 子どもたちを 救うために。



基本理念

私たちはキリスト教精神に基づいて活動します
私たちは貧しい人々のために献身します
私たちはすべての人を価値あるものとし、
私たちは仕えるものです
私たちはパートナーです
私たちはすぐに対応します

ビジョン・ステートメント

私たちのビジョンは、
すべての子どもに豊かないのちを
私たちの祈りは、
すべての人の心にこのビジョンを実現する意志を
Our Vision for every child, life in all its fullness
Our Prayer for every heart, the will to make it so

ミッション・ステートメント

ワールド・ビジョンはキリスト教精神に基づく
国際的なパートナーであり、イエス・キリストにならい、
貧しく抑圧された人々とともに働き、人々の変革と、
正義を追求し、平和な社会の実現を目指します。
私たちは、このミッション実現のために、
総合的かつ全体的な方法で、右の働きを行います。

- 変革をもたらす開発
- 緊急人道支援
- 正義の追求
- 教会とのパートナーシップ
- 情報提供
- スタッフの生活、行動等を通じた
ミッション・ステートメントの実践

数字で見る

ワールド・ビジョン・ジャパン

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動は、「開発援助(チャイルド・スポンサーシップ等)」、「緊急人道支援」、「アドボカシー(市民社会や政府への働きかけ)」が3本柱です。ここでは、世界で活動するWVJの2017年度の活動概要を、数字でご紹介します。



活動国・事業数

総事業数

30カ国で123事業

開発援助 事業数

23カ国で85事業

うち、チャイルド・スポンサーシップ事業数
21カ国で46事業

緊急人道支援 事業数

11カ国で38事業

活動を数字 とりまく数字

チャイルド・スポンサー数
49,233人

チャイルド数
56,812人

チャイルド・スポンサー
以外の募金者数
10,776人

チャイルドから
チャイルド・スポンサーへの手紙
約47,000通

補助金等による支援
8団体41件

イベント開催回数
17回

連携企業・団体数
2,457社・団体

職員数
(嘱託・アルバイト5人を含む) 84人

海外派遣・駐在
スタッフ数 8人

ボランティア数 285人

資金の集め方

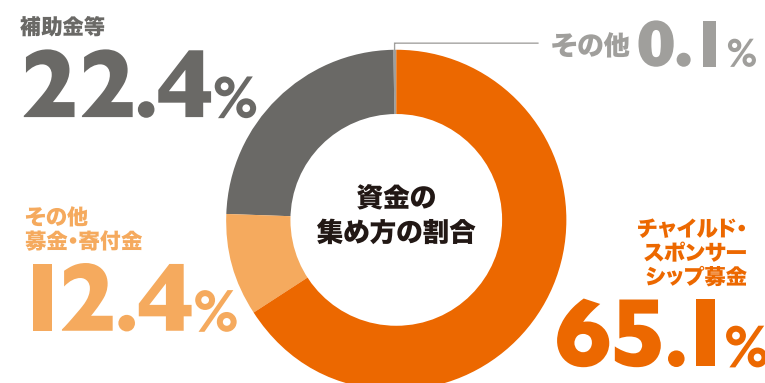
2017年度の経常収益

詳しい会計報告はP24をご覧ください

47億5,559万円

資金の集め方とその割合

WVJに寄せられる資金の6割以上は、チャイルド・スポンサーシップによるものです。その他、水と食糧のための募金や難民支援募金、国際機関や政府等からの補助金によって活動しています。



資金の使い方

2017年度の経常費用

詳しい会計報告はP24をご覧ください

51億3,176万円

資金の使い道とその割合

団体の運営・管理のため

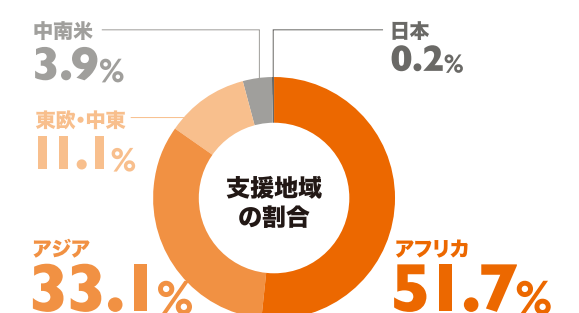
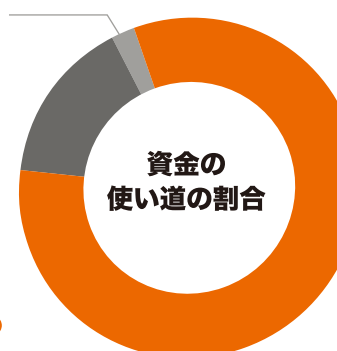
1.9%

広報活動のため

15.4%

現地事業活動のため

82.7%



ワールド・ビジョン・ジャパンは 世界30カ国で123の事業を 実施しました

すべては子どもたちのために。ワールド・ビジョン・ジャパンは、チャイルド・スポンサーシップ等による開発援助、緊急人道支援、アドボカシーを活動の3本柱として、2017年度は世界30カ国で123事業を実施しました。



**多くの日本人スタッフが
世界各地で支援活動に
従事しています**

長期派遣スタッフリスト (2017年9月30日時点)

渡邊 裕子	ヨルダン	2015年3月～
古田 ちあき	エチオピア	2015年9月～
望月 亮一郎	ルワンダ	2015年10月～
大沢 歩	エチオピア	2016年3月～
木戸 梨紗	エチオピア	2016年5月～
加藤 奈保美	ネパール	2017年1月～
松岡 拓也	カンボジア	2017年2月～
三浦 曜	バングラデシュ	2017年4月～

他団体出向
渡邊 いずみ 特定非営利活動法人ビーンズふくしま
2016年4月～

アフリカ

開発
援助



食事を楽しむ支援地域の子どもたち
(ウガンダのナラウェヨ・キシータADP)

開発
援助



灌がい設備を支援した農家グループの代表
と菊田スタッフ (タンザニアのゴロワADP)

開発
援助



きれいな水で嬉しそうに手や顔を洗う
子どもたち (エチオピアのゴンダール・ズリアADP)

開発
援助



支援地域の親子と望月スタッフ
(ルワンダのキラムルジADP)

緊急
人道支援



難民キャンプに建設した中等学校に通う生徒 (エチオピア)

東欧・中東

緊急
人道支援



日本全国から贈られた手編み衣料を
身に着けて喜ぶ子どもたち
(アフガニスタン)

緊急
人道支援



補習授業に通うシリア難民の子ども
たちと岩間スタッフ、渡邊スタッフ
(ヨルダン)

アジア

開発
援助



支援地域の子どもたちと高橋スタッフ
(インドネシアのトウナADP)

開発
援助



栄養ある食事の作り方を学ぶお母さん
(カンボジアのポニャー・ルウADP)

開発
援助



幼稚園の完成で農村での就学前教育が
前進。楽しそうに学ぶ子どもたち
(ミャンマーのタバウンADP)

開発
援助



母子保健事業を行う地域の関係者と
蘇畑スタッフ (インド)

開発
援助



新しく作られた井戸を使う子どもたち
(バングラデシュ)

中南米

開発
援助



青少年や若者たちの地域活動への参加促進
を目的として、ダンスグループが結成され
ました (エクアドルのブンガラADP)

日本国内

緊急
人道支援



様々な活動を通じ、地域の子ども
たちとの交流が深まっています
(福島子ども支援)

アドボ
カシー



世界の教育事情について国会議員に
発表する高校生

地域ごとのWVJ活動国リスト

アフリカ

ウガンダ
ケニア
スーダン
ソマリア
マラウイ
ルワンダ

エチオピア
コンゴ民主共和国
スワジランド
タンザニア
南スーダン

東欧・中東

アフガニスタン
イラク
ヨルダン

アジア

インド
スリランカ
ネパール
ベトナム
ラオス

インドネシア
ソロモン諸島
バングラデシュ
ミャンマー
日本

カンボジア
タイ
フィリピン
モンゴル

中南米

エクアドル
エルサルバドル

開発
援助

地域とともに歩みながら、子どもの健やかな成長を実現していくプログラム

チャイルド・スポンサーシップによる支援は、一人の子どもだけを対象にお金や物を提供する支援ではありません。そこに住む子どもたちが健やかに成長できる持続可能な環境を整えていけるよう、支援地域の人々とともに水衛生、保健、栄養、教育、生計の改善等に取り組みます。活動の成果を地域の人々自身が将来にわたって維持し、発展させるために、人材や住民組織の育成にも力を入れています。



栄養

発育を支えます

子どもたちの栄養状態を定期的にモニタリングし、保護者を対象に、栄養改善につながる啓発・トレーニングを行います。



母親を対象に、子どもの栄養や健康についてのトレーニングを行っています。特に5歳未満の子どもたちの栄養、健康状態の改善に取り組んでいます（バングラデシュのビルゴンジADP）



保健

病気から守ります

地域で保健サービスを提供できる人材を育成します。地域の医療機関と連携して、マラリアや下痢予防、妊産婦ケア等の啓発・トレーニングを行います。



家庭菜園を整備し、一年を通じて様々な種類の野菜を栽培。しっかり野菜を摂ることで家族の健康状態が改善しています（スリランカのリディマリヤグADP）

チャイルド・スポンサーシップの進め方

準備期

地域住民や行政関係者との関係構築、支援ニーズの調査、事業計画策定等を行います。

第1期～第3期

事業計画に基づき、支援地域のチャイルドの成長を見守りながら、水衛生、保健、栄養の改善、教育機会の拡充、生計向上等の活動を行います。また、これらの活動の将来の担い手として、人材・住民組織の育成にも取り組みます。

支援卒業準備期

これまでに育成した人材・住民組織が、いよいよ自分たちで活動を継続できるよう準備します。

卒業



生計向上

家族の収入を増やします

子どもたちの家族がより安定した収入を得られるように、畜産・農業支援、職業訓練、貯蓄グループ・生産者グループの活動支援を行います。



貯蓄組合の会合に親子で集まっている様子。定期的にお金を貯蓄することで、学費や家の修繕費等に必要なお金を工面しやすくなりました（スワジランドのシェウラADP）



教育

学ぶ環境を整えます

地域のリーダーや保護者を対象に啓発活動を行って教育の重要性を伝え、子どもたちが教育を受けられるよう働きかけます。また、教育施設・備品の整備や教師へのトレーニングを行います。



学校の先生を対象に、より良い授業を行うためのトレーニングを実施。教育環境を充実させ、子どもたちが積極的に学べるように支援しています（ケニアのイラマタクADP）



水衛生

安全な水が飲めるようになります

安全な水の確保は、子どもたちが病気になることを防ぐために欠かせません。井戸や貯水タンクの設置のほか、トイレの整備を行います。



「支援のおかげで乾期でもきれいな水を十分得られるようになりました。7人の子どもも健康です」とトエックさん（写真左の女性）（カンボジアのボレイ・チュルサルADP）

チャイルド・スポンサーになると



「子どもクラブ」で手紙を書くチャイルド（カンボジア）

海の向こうのチャイルドとの目に見えない絆

手紙によるチャイルドとの交流

チャイルド・スポンサーになると、支援地域のチャイルドとの手紙のやり取りを通じて、1対1の関係を築くことができます。2017年度は、チャイルドからの手紙47,000通以上と、グリーティングカード（年末年始のご挨拶）や成長報告をチャイルド・スポンサーにお届けしました。



チャイルドと家族と会い、交流することができました（ルワンダ）

チャイルドに会い、支援の成果を実感するツアーによる支援地域訪問

3月にベトナムへのツアー、6月にルワンダへのツアーを開催し、計38人のチャイルド・スポンサーが参加しました。「自分の寄付しているお金が村の人たちに役立っていることを目で見ることができました」「この旅によってルワンダを理解し、好きになりました」（訪問者アンケートより）



「声が聞いて嬉しい」といった感想をいただきました

チャイルドと地域をより身近に動画によるご報告

チャイルドや支援地域の様子を、写真ではなく動画でお伝えする新しい試みを開始しました。2017年度は10,700人のチャイルドの動画をメールでお届けし、支援地域の動画をホームページやFacebookで毎週ご紹介しました。

※ADP=Area Development Program(チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラム)

第1期

土台や仕組みを作ります

準備 第1期 第2期 第3期 卒業準備

主な活動内容

- チャイルドの登録 ●住民組織づくり
- 地域住民や行政関係者との関係構築
- 保健衛生・栄養・教育等の啓発活動や基盤整備
- 収入向上のための研修や機材・資金の提供 等

今年度該当の地域

- アジア トウナ(インドネシア)、
トモ・ブオ、ボレイ・チュルサール(カンボジア)、
リディマリヤッタ(スリランカ)、
西ドティ(ネパール)
- 中南米 コルタ(エクアドル)、
サンアグスティン、ティエラ・ヌエバ(エルサルバドル)

地域の人々と信頼関係を築きながら



水衛生

トイレの後に手を洗う習慣が身につきました

支援地域にある小学校にトイレと手洗い場が建設され、衛生面が改善されました。「校庭にもトイレができて、とても嬉しい。いつも外で遊んだ後にはワールド・ビジョンのスタッフや先生から教わった通り、忘れずに手を洗っています」とルエンちゃん(一番手前)。小さな変化から地域の人々の支援に対する信頼と期待が生まれています。(カンボジアのトモ・ブオADP)

\$ 生計向上

お金に関する知識を学びました

女性を中心とした貯蓄グループの活動を支援しています。現在では家庭の生計や家計管理能力が向上。安定して生活できる基礎ができつつあります。また、同グループでは栽培・販売する有機野菜の売り上げの一部を共同で貯蓄しており、子どもの急病時などに費用を借りられるセーフティーネットとしても役立っています。(インドネシアのトウナADP)

✎ 教育

学校と子どもたちの結びつきが強まりました

子どもクラブの活動の一環で、放課後に平和的な問題解決の方法をゲームや表現活動を通して学んでいます。進級によって授業についていけなくなる子どもや、家庭の事情で退学する子どもが多い中、この子どもクラブの活動は、中途退学者の減少に貢献するだけでなく、子どもたちの健全な育成の機会にもなっています。(エルサルバドルのティエラ・ヌエバADP)

※ラオスのADPの活動は2016年10月以降、地域に対する支援として活動が引き継がれました。ご支援くださっている方には別途報告をお送りしています。

第2期

知識・技術を身につける活動をしします

準備 第1期 第2期 第3期 卒業準備

主な活動内容

- 活動実施
- 住民組織づくりや育成
- 第1期での活動のモニタリング
- 地域レベルのアドボカシー(行政への働きかけ) 等

今年度該当の地域

- アジア カンドゥクール、キラユ、サイダベット、ブドウコッタイ(インド)、ボニヤー・ルウ(カンボジア)、タブラヤ、トゥンワ(タイ)、ビルゴンジ、ピロル、フルバリア(バングラデシュ)、サマール、レイテ(フィリピン)、トアンザオ、チャンエン、ムオンチャ(ベトナム)、ハイラアスト、バヤン・ウルギー(モンゴル)
- アフリカ キルヤンガ(ウガンダ)、カンボブ、トヨタ(コンゴ民主共和国)、ゲゲ、シェウラ(スワジランド)、ムキンガ(タンザニア)、クーユ(マラウイ)、キラムルジ、グウィザ(ルワンダ)
- 中南米 プンガラ(エクアドル)

地域に根差した活動が本格化



\$ 生計向上

魚の養殖支援で収入が向上しました

食糧安全保障と経済的自立の両方を目的として、農業生産性の向上や貯蓄グループの立ち上げ支援と、生産者グループに対する魚の養殖支援を実施しました。内陸国のルワンダでは養殖魚は貴重なタンパク源となり、子どもたちの栄養改善や、収入向上による生活環境の改善につながっています。(ルワンダのグウィザADP)

👶 児童保護

暴力から子どもを守る保護グループができました

子どもたちを虐待や暴力から守るために、地域や学校に子ども保護グループを設置し、子どもの権利や安全についての啓発活動を、行政機関や学校と協力して進めました。啓発活動に参加した女の子(11歳)は、「両親に『私に暴力をふるわないで』と、怖がらずに言うことができることを学びました」と話しています。(インドのサイダベットADP)

🌾 栄養

幼いうちから栄養の大切さを学んでいます

栄養改善を分かりやすく学べるように作られた学校菜園の収穫物を、学校公開の日に展示する子どもたち。地域全体の栄養改善のために、保護者をはじめとする大人だけでなく、次世代を担う子どもたちにも食材の知識や栽培技術を伝えています。(エクアドルのプンガラADP)



第3期 評価・見直しをしつつ活動を進めます

準備 第1期 第2期 **第3期** 卒業準備

主な活動内容

- 第2期での活動の継続
- 地方行政や現地NGO等との連携強化
- さらなる住民参加型活動の強化 等

今年度該当の地域

- アジア** タバウン(ミャンマー)
- アフリカ** ゴンダール・ズリア、テラ(エチオピア)、イラマタク、キアムボゴコ(ケニア)、ゴロワ、ムゲラ(タンザニア)

支援の成果と課題を見極めて活動を継続



水衛生

小規模ダムを建設しました

支援地域では水が乏しく、生活用水の不足や、水不足により耕作されない農地の存在が問題となっていました。支援によって、小規模なダムの建設とパイプによる引水ができるようになりました。生活用水や農業用水が確保できることで、支援地域の人々の衛生状態の改善や農業収入の向上が見込まれます。(タンザニアのゴロワADP)



保健

適切な衛生習慣が身につきました

幼稚園や学校にトイレと手洗い場を整備しています。衛生への関心を高め、手を洗うという基本的な衛生習慣が身につくことで、感染症から身を守ることができます。村では井戸やトイレの設置が進められ、持続可能な支援とするため住民グループによる水や保健衛生に関する啓発活動も活発に行われています。(ミャンマーのタバウンADP)



栄養・生計向上

安定した収入が得られるようになりました

地域住民が十分な食料を生産・確保できるように、灌がい設備の整備・普及と、栄養価の高い様々な農作物の栽培を推進しています。子どもたちに栽培した野菜を食べさせることで栄養状態を改善し、収穫した農作物の販売を通じて安定した世帯収入が得られるように支援しています。(エチオピアのゴンダール・ズリアADP)

支援卒業 準備期

支援の終了を意識し、持続性のある活動を進めます

準備 第1期 第2期 第3期 **卒業準備**

主な活動内容

- これまでに育成した人材・住民組織が、支援終了後も自分たちで活動を継続できるよう準備

今年度該当の地域

- アジア** カルマカンダ(バングラデシュ)、バンエン(ベトナム)
- アフリカ** ナラウェヨ・キシータ(ウガンダ)

自分たちで活動を継続できる自信と希望を持てるように



指導者育成

支援卒業に向けて、地域の8つのコミュニティの人民委員会と、合計54の村落開発委員会のメンバーに対して研修を行い、地域の指導者たちの能力強化に取り組みました。この委員会が中心となり、夏休み中の子どもたちのためのイベントの企画や、校庭の建設、防災訓練などを行っています。(ベトナムのバンエンADP)



教育

支援地内には125校の学校がありますが、郡の教育担当者は1名しかおらず、こまめな管理が困難です。支援卒業後も学校が適切に管理・運営されるよう、学校管理委員会、PTAの強化に取り組みました。学校の組織力が強化され、親の意識が向上したことにより、子どもたちの学校へのアクセス向上と、教育の質の向上につながっています。(バングラデシュのカルマカンダADP)

支援卒業報告 ケニアのオレントンADPより

女の子が健やかに成長できる環境づくりが進みました

2017年9月、ケニアのオレントンADPは支援卒業を迎えました。貧困に起因する問題が山積だったこの地域は、支援によって子どもたちが健やかに成長できる場所へと変化を遂げました。女性器切除(FGM)と早婚の廃絶に向けた啓発活動は大きな効果をあげ、FGMを受ける女の子の割合は97.5%(2007年)から25.0%(2016年)へと大幅に減少。早婚を強要される女の子も減りました。



支援によって早婚の危機から救われ、教育を受けることができたビュリディさん(22歳)

今度は自分が助ける
立場になりたい

募金や他団体との連携による事業

チャイルド・スポンサーシップによる活動に加えて、皆さまからの募金や日本政府からの補助金、他団体との連携による事業を実施。紛争・災害の中にある人々や子どもたちに迅速な支援を届けたいです。

開発
援助

母子保健

事業実施国 エチオピア、南スーダン、カンボジア

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力／特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)／国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)／南スーダン保健合同基金

皆さまからの募金額

■児童保護募金 …………… 35,717,790円

■誕生日記念募金 …………… 35,543,011円

■プロジェクト・サポーター* … 51,230,000円
(P15の難民支援分含む)

*プロジェクト・サポーターとは、文通や訪問ができる子ども(チャイルド)の紹介はない継続支援を通して、困難な状況に生きる途上国の子どもたちを支援するためのプログラムです。

—エチオピアからの報告—

アムハラ州妊産婦・新生児の健康改善事業

活動の背景

妊産婦を取り巻く過酷な環境

支援地域のアムハラ州の大部分は、干ばつや洪水の影響を受けやすい貧しい農村地です。医療施設へのアクセスの難しさと保健サービスの質の悪さや地域住民の慣習により、産前産後健診や分娩助産を受けられないまま、自宅で出産する妊産婦が多くいます。そのため出産に伴う合併症や感染症によって命を落とす妊産婦と新生児が多いのが課題となっています。



支援前の分娩室の様子



母親のミーティング



保健スタッフへの研修



支援で建設された産科棟

お母さんが安心して出産できる環境が整いはじめています

活動の成果

環境の整備と啓発活動が進みました

3カ年事業の2年目として引き続き、保健センターの産科棟、胎盤処理施設、浅井戸、焼却炉などの建設や備品を提供しました。また保健スタッフに基礎的な緊急産科・新生児ケアの研修を、対象保健センターのスタッフには現状のやり方を見直して改善点を学ぶ研修を実施。研修後は、出産後すぐに病院に搬送されていた低出生体重児のケアが保健センターでも対応可能になるなど改善が見られています。また、地域の宗教・コミュニティのリーダーを対象とした「お母さんと赤ちゃんのケア」の啓発研修や、地域の妊産婦と義母、夫に向けた啓発活動など、地域の文化や慣習に配慮したアプローチによって、地域住民の意識と行動の変容を目指した活動が進められています。

支援地域からの声

安心して出産できるようになりました

2人目の子どもまでは、WVJのサポート前の保健センターで出産しました。狭い待合室の床で出産を待たされプライバシーもなく、とても辛かったのを覚えています。でも今は新しい産科棟が建てられ、きれいでプライバシーの守られた施設で安心して出産をすることができます。私たちと子どもたちに支援を行ってくれたWVJに感謝します。



ティゲットさん



エチオピア

開発

緊急

水・食糧支援

事業実施国 ソマリア、スーダン、南スーダン、ルワンダ、イラク、ミャンマー、バングラデシュ

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力／独立行政法人国際協力機構(JICA) 草の根技術協力／国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)／国連世界食糧計画(WFP)

皆さまからの募金額

■水と食糧のための募金 …………… 94,531,806円

■クリスマス募金 …………… 3,107,240円

■緊急食糧援助募金 …………… 2,376,067円

■ラブ・ローフ募金 …………… 2,130,651円

■イラク国内避難民緊急支援募金 …… 444,500円

—バングラデシュからの報告—

シレット県ゴワインガット郡 コミュニティと取り組む水・衛生環境改善事業

活動の背景

子どもたちの病気につながる不安

バングラデシュは、長らく「アジア最貧国」と言われてきましたが、近年、5歳未満児死亡率や水衛生へのアクセスは着実に改善してきています。しかし、この事業の支援対象地であるバングラデシュ北東部シレット管区シレット県ゴワインガット郡は、地理的要因も相まって国全体の開発から取り残されていました。安全な水を利用している世帯の割合や、衛生的なトイレを保有する世帯の割合など、いずれも全国平均を大きく下回り、子どもの健康に対する大きなリスクとなっています。



水溜りの水を生活用水として使用する女性たち



下痢にかかった時に飲む経口補水塩の作り方のデモンストレーション



正しい手洗いを学ぶイベント



母親への啓発活動



バングラデシュ

子どもたちに安全な水を届ける活動ができています

活動の成果

安全な水と衛生的なトイレを使う習慣が広まっています

この事業では、ゴワインガット郡における公衆衛生状況を改善することを目的とし、井戸やトイレの設置、住民が手洗いやトイレの使用を習慣化するよう啓発しています。3年間の事業の1年目は、79基の井戸の建設や1,156基のトイレの設置などを実施し、あわせて手洗いやトイレを使用するなど衛生習慣を身につけられるよう働きかけました。サンプル調査の結果、適切な手洗い行動をとることができる親・保護者の割合が、事業開始当初と比較して19%増加するなど、支援地域内の衛生的な行動の改善に貢献していることがわかりました。

数値で見る成果

井戸の建設 79基

トイレの設置 1,156基

適切な手洗い行動ができる親・保護者の割合 19%増加
事業開始当初と比べて

支援地域からの声

安心して使える水があることに感謝

私たちの村はインドとの国境に近く、良い水源は国境線の近くにあり、水汲みにいくと越境者と間違われ、国境警備兵から狙撃されることもありました。この井戸ができて、危険な水汲みから解放され、子どもたちも身近な場所で手をきれいに洗えるようになりました。ご支援を感謝します。(コミュニティ・リーダーの男性)



井戸ができて感謝しています

緊急
人道支援

難民支援

事業実施国 エチオピア、南スーダン、ヨルダン

連携機関 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム (JPF)
国連児童基金 (UNICEF)

—エチオピアからの報告—

エチオピア南スーダン難民キャンプでの教育・水衛生環境整備事業

活動の背景

未来に希望を持ってない
子どもたち

エチオピア・ガンベラ州の南スーダン難民キャンプは、2014年に避難してきた難民が大半を占めており、キャンプ内での避難生活の長期化が見込まれています。将来の見通しが立たない厳しい環境の中、学校へ行くことができず、劣悪な衛生環境のために水因性の下痢や感染症のリスクにさらされている子どもたちが多くいる状況が続いていました。



中等学校建設後、仮で使用していた初等学校校舎



開校した中等学校での授業風景



建設した世帯用トイレ (クレ難民キャンプ)



開校した中等学校での授業風景

難民キャンプに初の中等学校！
希望が生まれています

活動の成果

教育環境と衛生環境の改善が進んでいます

これまで中等学校がなかったジョウィ難民キャンプにおいて、初の中等学校を開校し、初等学校から継続して勉強できる環境を整備しました。授業の提供だけではなく、学校の運営、教員の研修、コミュニティによるPTSA (日本と同じPTAに生徒も交えた組織) の設置、および難民コミュニティ内での女子教育の啓発活動等を実施し、コミュニティ全体で教育をサポートできる体制を整えました。また、未だ衛生環境が整備されていないクレ難民キャンプにおいて、世帯用トイレの建設をはじめ、難民によるゴミ処理活動の促進、手洗いの啓発活動等を実施し、キャンプ内の約6万人の難民が、衛生的な環境で生活できることを目指しました。その結果、難民自身に自覚が生まれ、支援団体に頼らない環境改善を進める一歩を進めることができました。

支援地域からの声

将来は祖国を変えられる人になりたい

将来はNGOで働いて、子どもたちに教育の機会を作ってあげたいという思いで勉強を続けています。故郷や祖国での戦闘の悲惨な状況が噂で聞こえてくるたびに、今はここで勉強を続けて、祖国を変える人にならなきゃという思いが強くなります。



南スーダンから避難してきたガットベルくん

—ヨルダンからの報告—

シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業

活動の背景

内戦により奪われた
学ぶ喜び

65万人以上のシリア難民を受け入れているヨルダンでは、シリア危機の長期化を受け、国内に避難しているすべてのシリア人の子どもたちに教育の機会を提供するため、午前・午後の二部制の学校を増やしています。そのような環境では学習時間の短縮や大人数の教室といった教育の質の低下を招き、それが原因で学力が身につかず退学してしまう児童も多く、そのような子どもたちが児童婚や児童労働などの危険にさらされていました。



シリアの男の子



授業の様子

グループワークに取り組みシリア難民の子どもたち

避難生活によるストレスを
和らげる支援を進めています

活動の成果

補習授業が子どもたちに喜びと自信をもたらしています

今年度も多くのシリア難民が暮らすヨルダン北部の都市イルビドとザルカで、シリア難民と地元のヨルダン人の子どもたちを対象に補習授業を実施しました。紛争で学校に行けなかった期間の学習の遅れを取り戻せたなど、着実に学力は向上。勉強が分かることで、学習意欲も高まり、自信や自己表現の回復にもつながりました。また、避難生活による不安やストレスを和らげるために取り入れた図画工作やスポーツなどのレクリエーション活動では、社会性や思いやりの気持ちの回復も見られました。夏期・冬期講習中には、普段交流する機会の少ないシリア難民とヨルダン人の子どもたちが、一緒に学び遊ぶことで、国籍を超えて交友の輪を広げることができました。

支援地域からの声

勉強のおもしろさに目覚め、将来の夢が持てました

ワールド・ビジョンが運営する補習授業では、平日の学校の授業が始まる前にアラビア語、英語、算数の補習を受け、授業の終わりには絵を描いたり簡単なスポーツをしています。補習授業を受けてからは計算もできるようになって、算数のおもしろさに目覚めました。ほかの科目の成績もうんとよくなり、それが自信にもつながっています。将来の夢はお医者さんになること。実現するために頑張って勉強するつもりです。

シリアから避難してきた
ブシュラさん(13歳)

シリア難民越冬支援報告

シリアのアレップからヨルダンに避難しているファティマさん(写真左)は、夫と9人の子どもたちと、2部屋しかない家で暮らしています。厳しい冬の寒さをしのぐため、以前は近所の人から古着を分けてもらっていました。しかし、防寒着の支援を受け、子どもたちに新品の上着を着せることができました。暖房用ガスボンベの提供も受け、「温かく過ごせます」と喜んでいます。

支援で受け取った上着を娘に着せるファティマさん▶



緊急
人道支援

国内支援

福島子ども支援

被災地で暮らす子どもたちのために



避難生活を送る子どもたちと、避難先の子どもたちが交流できるきっかけづくりに取り組みました

東日本大震災から7年以上が経過した今も、長引く避難生活や震災の直接的・間接的な影響による家庭の生活基盤の変化など、厳しい環境に置かれている子どもたちがいます。東日本大震災緊急復興支援事業の資金を活用して2016年4月に開始した「福島子ども支援事業」では、現地のNPO法人ピーンズふくしまとの協働により、生活困窮等で孤立する子どもの家庭訪問支援や学習・居場所の支援、また地域での支援体制作り等に取り組んでいます。今後、本事業からの学びを冊子にまとめて広く発信し、2018年3月に終了する予定です。

「子どものための心理的
応急処置(PFA for Children)」
研修の実施

緊急時、子どもたちにこころのケアができるように



PFA研修にて、ロールプレイの様子

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は、東日本大震災や熊本地震をはじめ、国内外各地の緊急支援の現場で物資支援や子どものこころのケア等を行ってきました。その経験を活かし、災害や事故等の緊急時に子どもと関わる可能性のある方を対象に、「子どものための心理的応急処置(PFA for Children)」ができる人材育成のための研修(*)を2017年度に9カ所ですべて13回開催し、計310人の方にご参加いただきました。災害や事故等への平時からの備えとして、各地で子ども支援に携わる方々とのネットワーク強化にもつながりました。

*本研修は、公益財団法人ウェスレー財団からの活動支援金により、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、公益社団法人日本YMCA同盟、各研修開催地のYMCAおよび研修会場幼稚園などの協力を得て実施しました。

スタッフの声

WVJだからこそできる、日本の子どものための支援事業を模索しています

「私たちのビジョンは、すべての子どもに豊かなのちを 私たちの祈りは、すべての人の心にこのビジョンを実現する意志を」WVJが海外だけでなく国内の子どもも支援したいと願う理由は、このビジョン・ステートメントに集約されていると思います。経済的な事情に限らず、様々な理由で脆弱な立場に置かれ、困難に直面している子ども、危機的状況

に陥っている子どもが、日本にもたくさんいます。世界中の子どもたちが、今を生きることや将来に希望を持てるように。WVJが拠点とする日本の子どもたちのために、国内外の活動経験を有する私たちだからこそできる貢献があるはず。そう信じて、今後の国内支援の展開について検討を進めています。



高橋 布美子 スタッフ

アド
ボカ
シー

アドボカシー

子どもを取り巻く問題の解決のため訴え続けていきます

一人ひとりが問題について知り、その原因について声をあげ、解決のためにできることを訴えていくことをアドボカシーといいます。例えば児童労働の問題の背景には、子どもの権利に対する理解不足があり、その根底にはグローバル化の中での価格競争の結果、適正な対価が払われないという根本原因があります。この「根本原因」の解決を目指す活動がアドボカシーです。WVJでは政策を変え、不公正な社会を変えていくために、アドボカシーに取り組んでいます。

国外におけるアドボカシー



G7・EUシェルパと市民社会の対話の様子

G7諸国に
子ども中心の政策提言を行いました

2017年度は、イタリア・タオルミナのG7サミット(首脳会議)に向けて、他国のワールド・ビジョン事務所やNGOネットワークなどと協働しました。1月にはローマで開催されたG7市民社会戦略会議に参加。世界各地からの60名以上の参加者とともに議論し、共同政策提言を作成しました。その中で、ワールド・ビジョンは参加者の中から選ばれた7名の代表の一人として、G7各国および欧州委員会の首脳特別個人代表(シェルパ)との政策対話に臨み、かねてより重視している子どもの栄養改善の課題について直接提言を行いました。残念ながら、首脳宣言(コミュニケ)では、G7としての資金コミットメントなどの具体策は示されませんでした。次回のカナダでのG7サミットでは具体的な方策が示されるよう、引き続き取り組んでいます。

国内におけるアドボカシー



子どもに対する暴力撤廃に協働で取り組むパートナー一同

子どもに対する
暴力撤廃のアドボカシーに着手

世界では今、紛争・虐待・いじめ・人身取引など様々な暴力により、5分間に1人の子どもが命を落としています。これを踏まえ、子どもに対する暴力撤廃のアドボカシーに着手しました。その一環として、9月1日にはパートナー団体とともにセミナー「子どもに対する暴力をなくすために〜持続可能な開発目標(SDGs)16.2の達成を目指して」を開催。前国際連合日本政府代表部大使の南博氏、「子どもに対する暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップ」事務局長のスーザン・ピッセル氏、日本人初の国連子どもの権利委員会委員の大谷美紀子氏とともに、WVJの柴田スタッフが登壇し、子どもに対する暴力撤廃の取り組みを紹介し、子どもたちを守るために私たち一人ひとりに何ができるかについて議論しました。

WVJと
協働しています大谷 美紀子氏
(弁護士・国連子どもの権利委員会委員)

2017年から、SDG16.2-子どもに対するあらゆる暴力の根絶に向け、ワールド・ビジョンを初めとする子どもの権利分野のNGOと一緒に取り組みが始められていることを心強く感じています。国際協力・国内での取り組みの連動、様々なアクターの協働・連携の実例を作っていきましょう。

企業との連携

1,460社から、総額698,760,031円のご支援をいただきました

企業の皆さまから、チャイルド・スポンサーシップ、学校や診療所建設などの特別プロジェクト、商品・サービスの売り上げからの寄付、社員募金と企業のマッチング募金、ボランティアへのご協力など、様々なご支援・ご協力をいただきました。2016年に始まった国際的な取り組み「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現に向けて積極的に参画される企業の皆さまから、事業実施のパートナーとしてご支援をいただいています。

2017年度ご支援事例紹介(一部)

特別プロジェクトによるご支援



武田薬品工業株式会社

武田薬品工業ではグローバルに展開するCSRプログラムを、世界約70カ国3万人の全従業員を対象とした投票によって選定しています。『地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム』は、乳幼児死亡率の高い南アジア4カ国において、2016年10月から5年間で1,400人の地域医療従事者の能力を強化し、約50万人に保健医療に関する知識とサービスを提供することで、母子の「予防可能な死」を削減します。

母子に保健サービスについて聞き取り調査を行う保健ボランティア(バングラデシュ)





SHIONOGI

塩野義製薬株式会社

シオノギグループが販売する総合ビタミン剤「ポポン®S」シリーズで日本のお母さんの健康を応援しながら、その売り上げと社員からの寄付により、ケニアでの母子保健プロジェクトを支援いただく「Mother to Mother SHIONOGI Project」。初年度に開所した診療所の来所者数は2年度の2017年は1.6倍に増加、巡回診療を通して多くの母子に保健医療を届けました。WVケニアのスタッフを招聘いただき、プレスセミナーやイベントも開催しました。



社内イベントの様子

チャイルド・スポンサーシップを通して



株式会社レントラックス

チャイルド・スポンサーシップを通して、現在、21カ国で58名のチャイルドをご支援くださるとともに、ラオスの子どもの動きのためにご支援くださっています。社員1人が1人のチャイルドを担当し、手紙の交流等に関わっています。チャイルドの写真をオフィスのデスクに飾る社員もいったり、社内でも支援が身近なものとなっています。



支援国の1つ、エチオピアで水衛生の支援を受けた子ども



tutu anna

株式会社チュチュアンナ

チャイルド・スポンサーシップを通して25名のチャイルドを支えていただくとともに、教育、保健、水衛生分野の特別プロジェクトをご支援いただいています。2017年度にはご支援により、フィリピンのサマル州内の中学・高等学校の校舎が完成しました。2013年の台風ハイエンの被害を受けて以降、仮校舎で学んでいた生徒たちが、学習に適した環境で学べるようになりました。



新校舎の前に並ぶ生徒たち



UCHIYAMA HOLDINGS
ウチヤマホールディングスグループ
東証一部上場(証券コード:6059)

株式会社ウチヤマホールディングス

全国で運営されている高齢者介護施設一カ所につき1人のチャイルドをご支援いただいております。現在、52名のチャイルドを支えていただいています。チャイルドの写真を各施設内に掲載いただき、その子どもたちの成長を楽しみに、温かい交流を続けてくださっています。



施設利用者の方々がチャイルドへの支援や募金を呼びかけてくださっています

商品・サービスの売り上げからの寄付



G+SPREAD

ジースブレッド株式会社 若尾製菓株式会社

チャイルド・スポンサーシップを通したご支援に加え、「しあわせのカルテットクランチ」の売り上げ、および、支援の輪を広げるために設立されたジースブレッド株式会社のお菓子「Happy Gift」「やさしさセット」の売り上げからの寄付により、アジア・アフリカで学校建設をご支援くださっています。2017年度には、ミャンマー、バングラデシュに続き、3校目となるケニアでの学校建設が始まりました。



文具と本もご支援いただきました

ご支援・ご協力をいただいた企業(一部)



ヤマザキ

山崎製パン株式会社



TAMANOHADA

玉の肌石鹸株式会社



住友化学

住友化学株式会社



東芝プラントシステム株式会社

東芝プラントシステム株式会社



ヒロセ 通商

ヒロセ通商株式会社



TAISEI

株式会社タイセイ



PRECO

株式会社プレコフーズ



Sincere

株式会社シンシア



BLUMARE

株式会社ブルマール



MITSUBISHI MOTORS

三菱自動車工業株式会社



セブン&アイ HLDGS.

セブン&アイ アベスコ基金



えがお

株式会社えがお



FUJITSU

株式会社FUJITSUユニバーシティ



NTT data

株式会社NTTデータ



LaQ
Innovative and Creative
ヨシリツ株式会社



YAHOO! JAPAN ネット募金

ヤフー株式会社



EPOS CARD

株式会社エポスカード

アキバ食品機械株式会社
株式会社アプリシエイト
株式会社isisホールディングス
株式会社インプレザリオ
株式会社S・Kテクノビルド
株式会社奥誠商事
株式会社カインドオル

キャリアインキュベーション株式会社
株式会社電巧社
株式会社東和キャスト
株式会社ニッシンイクス
株式会社マスパック
三菱自動車STEP募金

「世界の子どもたちへ編み物作品を贈ろう」プロジェクト

MS&AD ゆにぞん Smile Club

公益財団法人 日本手芸普及協会

MS&ADインシュアランスグループの社員ボランティア組織「MS&ADゆにぞんスマイルクラブ」と日本手芸普及協会が行ってきた手づくりの編み物衣料を途上国に届ける活動に、ワールド・ビジョン・ジャパンは2002年から協力団体として参画しています。2017年度はアフガニスタン・ヘラートに5,731枚の衣類を届けました。暖かい衣料とともに、現地の様子を紹介し、相互理解と交流を目指しています。

各種団体との連携(一部)

997団体から、総額72,534,461円のご支援をいただきました

ウェスレアン・ホーリネス教団 淀橋教会
宇都宮二荒ライオンズクラブ
神の家族キリスト教会 クリスチャンウェイ
加茂念仏堂
グレースコミュニティ

学校法人聖ミカエル国際学校
学校法人捜真学院 捜真小学校
日本イエス・キリスト教団 荻窪栄光教会
日本キリスト教団 渋谷教会
日本ホーリネス教団 池の上キリスト教会 坂戸キリスト教会

練馬神の教会
学校法人梅光学院 梅光中学校・高等学校
学校法人ベタニヤ学園 日進ベタニヤ幼稚園
山下湘南夢クリニック

19 | World Vision Japan Annual Report 2017

World Vision Japan Annual Report 2017 | 20

皆さまとともに

イベントやボランティアを通して、多くの方にワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動・支援の輪にご参加いただきました。

グローバル教育

世界への興味を育む取り組みに3,684名の子どもたちが参加

日本の子どもたちや若者が、世界に目を向ける機会となる「グローバル教育」を実施しています。スタッフが教育機関に赴き世界の子どもたちについて紹介する講師派遣や、WVJ事務所を訪問する学生を受け入れるなど、3,684名が参加。小学生対象の「サマースクール」、中高生対象の「ユースプログラム」、楽しく参加できる募金プログラム「子どもを想う力 アドベントカレンダー」、社会変革を担うアジアの若者が集う「Youth for Change Conference」など幅広い活動を展開しました。



絵本作家に科幸子先生と福島デザインのご協力により誕生した「子どもを想う力 アドベントカレンダー」

事務所訪問	受入回数	21回
	対象人数	245人
派遣授業	受入回数	31回
	対象人数	3,185人
サマースクール ※追加開催のミニ・サマースクールを含む	受入回数	3回
	対象人数	195人
ユースプログラム	受入回数	2回
	対象人数	59人

サマースクール開催報告

ぼくたち、私たちにも、“何か”はきっとできる！



小学生対象の「サマースクール」では、途上国の子どもたちの日常生活の疑似体験など、参加型で楽しく学びを深めるプログラムを実施しました。ゲストにケニアで支援を受けて育ったスティーブンさんを迎え、また、中野区教育委員会にご後援いただき、追加開催した「ミニ・サマースクール」を含め195名の子どもたちが参加しました。

サマースクールに参加した子どもたちの「声」

少しでもいいから、貧しい人にお金を分けてあげたい(3年生)

どうして世界中で、こんなふうには貧困な人と裕福な人に分かれてしまっているのか、もっと知りたい(5年生)

食糧が少ない国もあるので、もっともっと食べ物を大切にしていきたいと思った(5年生)

ボランティア

285人の皆さまが、活動を支援してくださいました

新たに49人がボランティアに参加し、活動を支援くださっています。事務所では1日10～15名の方が、データ入力、発送事務、動画編集、翻訳等、幅広い業務を担当。一方、在宅ボランティアとしても、日本各地で、そして海外で翻訳業務にご協力いただきました。



チャイルド・スポンサーとチャイルドからの手紙の発送、成長報告、事務所からの各種ご案内等が、ボランティアの皆さまの手によって準備されます

ボランティアの声

一人の子どもだけでなく地域全体を支援する形に共感し、チャイルド・スポンサーになりました。その後、自らの経験を活かして貢献できればと、ボランティア活動に参加。幅広い世代の方々やスタッフと目標を共有し、良い雰囲気の中、活動を続けさせていただいています。



月3回ボランティア活動に参加し3年目を迎える
清水純子さん



年に一度開催されるボランティア感謝会の様子

交流会・イベント

ワールド・ビジョン・カフェ

11都道府県で開催、のべ671人が参加

支援地域での活動報告や参加者同士の交流の場となる「ワールド・ビジョン・カフェ(WVカフェ)」を、全国11都道府県で開催。のべ671人が参加しました。2月に大阪と東京で開催したWVカフェには、ケニアから来日したスタッフが登壇。2017年9月で支援終了を迎えるオレントン地域での支援の成果を報告しました。



ケニアから来日したシニーナ・シャニ・スタッフ

くつ下の力。子どもを想う力。～クリスマス チャリティイベント～

10日間でのべ962人が参加、286,605円が集まりました

2016年11月18～27日、東京・代官山にある商業施設ログロード代官山に、日本初となるコインアート募金箱を設置しました。10日間でのべ962人にご参加いただき、286,605円の募金で「くつ下アート」が見事に完成。この募金は、南スーダンやバングラデシュの子どもたちに安全な水や食糧を届けるために使われました。



ログロード代官山に日本初のコインアートが完成！

「世界難民の日」特別シンポジウム

難民との共生を支援現場の最前線から考えました



「難民とともに生きる」を支援現場の最前線から考えるシンポジウムを2017年6月に開催。定員を超える120名にご参加いただきました。難民支援に関わる実務者と日本で暮らす難民が一堂に会し、日本での難民受入れの現状や、世界で今起きている難民危機を包括的に捉え、「難民とともに生きる」ことについて参加者一人ひとりが考える機会となりました。

主催：(特非)ワールド・ビジョン・ジャパン／(公財)アジア福祉教育財団 難民事業本部
協力：国連難民高等弁務官事務所(UNHCR) 駐日事務所／株式会社ファーストリテイリング



難民支援現場の関係者が一堂に会しました

「愛の泉」チャリティーコンサート

美しい音楽で、子どもたちに支援を届けました

第16回「愛の泉」チャリティーコンサートが、2017年9月21日、山崎製パン株式会社を中心とした各社の協力により開催され、アフリカのマラウイ共和国における女子教育促進支援事業のために多大な募金をいただきました。女子の早婚率が高いマラウイにおいて、ご寄付により女子寮を建設し、遠くから通う女子生徒たちが学業を継続できるように支援します。また親やコミュニティの人々へ研修を行い、子どもの権利や女子教育の重要性について理解を深めていきます。



コンサートの様子



新事務局長 木内真理子からのメッセージ

平和を作るのは人。 支援した子どもたちが、将来の平和の 作り手になることを願っています。

木内(きない)真理子 プロフィール：

1987年国際協力銀行(JBIC)前身のOECFに入社。英国LSE、オックスフォード大学で開発学修士。東京大学での勤務を経て、2008年10月よりWVJに勤務。2017年4月より現職。

厳しい現実の中で 精一杯生きる子どもたち

世界の子どもたちに、今の社会はどのように映っているのでしょうか。紛争、自国主義、分断、差別、格差― 子どもたちには、これらの政治的な背景や経済的な理由はわかりません。しかし、これら「大人の事情」に、子どもたちの人生は大きく左右されます。2016年末の難民6,560万人のうち、18歳未満の子どもは51%を占め、年間560万人の子どもたちが5歳まで生きられずに命を落としています。子どもたちは厳しい現実の中で、精いっぱい生き延びるしか選択肢がないのです。



* SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



設立30周年。変化に 挑戦し、新たに漕ぎ出します

2017年10月、ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は設立30周年を迎えました。これまでのご支援とご協力に、スタッフを代表して心より御礼申し上げます。WVJは、今までの30年を受け継ぎつつ、変化に挑戦し、新たに漕ぎ出すための中期計画「New Vision 2020」をスタートさせました。多様なパートナーとともに、弱い立場にある子どもたちに仕え、希望をもたらすことが計画のテーマです。

一方、2016年に国連が発表した「持続可能な開発目標(SDGs)」*の実現を目指す機運が国内外で高まっています。貧困、水衛生、教育などの分野で17の目標を掲げ課題を解決しよう、という国際的な「決意表明」であるSDGs。ワールド・ビジョン(WV)も、国際機関、政府、企業、市民団体などのパートナーと力を合わせて、活動を継続していく決意を新たにしています。

WVが目指す支援

WVの支援は、子どもたちが教育を受け健康であることに加え、「家族や隣人に愛される」ことを目指す、という特徴があります。人はみんな価値ある存在です。子どものころからそう認められ受け入れられて育つことが、将来、他者を認め、多様性を受け入れる大人になるためにとても大切だと思います。世界や国の平和を作るのは人。今、支援している子どもたちが、将来の平和の作り手になることを願ってやみません。これからのWVもどうぞよろしく願いいたします。

2017年度 会計報告

正味財産増減の状況 2016年10月1日より2017年9月30日まで(単位：千円)

I. 一般正味財産増減

経常収益			
1 受取寄付金	受取スポンサーシップ募金	3,097,651	
	受取その他募金・寄付金(1)	588,740	3,686,391
2 受取補助金等	政府系機関からの受取補助金等	207,732	
(2)	民間団体からの受取助成金等	215,110	
	国連機関からの受取委託金等	644,131	1,066,973
3 受取会費			620
4 基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益			1,613
経常収益合計(A)		4,755,597	

経常費用			
1 事業費	地域開発援助事業費	4,215,274	
	地域開発援助・委託援助事業費(※)	4,043,810	
	地域開発援助事業管理費(5)	171,464	
	人材派遣費(3)	29,025	
	啓発教育費	792,625	
	各種啓発教育費(4)	449,376	
	啓発教育事業管理費(5)	343,249	5,036,924
2 管理費(5)			94,839
経常費用合計(B)		5,131,763	

経常外収益			
1 固定資産売却益			119
経常外収益合計(C)			119

当期一般正味財産増減額(A+C)－(B)		－376,047	
一般正味財産期首残高		1,335,532	
一般正味財産期末残高(D)		959,485	

II. 指定正味財産増減

当期指定正味財産増減額		685,443	
指定正味財産期首残高		78,618	
指定正味財産期末残高(6)(E)		764,061	

III. 正味財産期末残高

正味財産期末残高(※※)(D)+(E)		1,723,546	
---------------------	--	-----------	--

資産・負債の状況 2017年9月30日現在(単位：千円)

I. 資産の部

1 流動資産		599,234
	現金預金	570,982
	前払金	26,250
	立替金	771
	未収金	704
	仮払金	341
	その他流動資産	186
2 固定資産		1,384,278
	基本財産	50,000
	特定資産(6)	1,261,710
	補助金・助成金引当資産	352,995
	地域開発援助事業引当資産	393,000
	特定事業引当資産	411,066
	その他特定資産	104,649
	その他固定資産(7)	72,568
資産合計		1,983,512

II. 負債の部

1 流動負債		155,317
	未払金	126,809
	預り金	5,405
	賞与引当金	23,033
	未払法人税等	70
2 固定負債		104,649
	退職給付引当金	104,649
負債合計		259,966

III. 正味財産の部

1 指定正味財産		764,061
(うち特定資産(6)への充当額)		(764,061)
2 一般正味財産		959,485
(うち基本財産への充当額)		(50,000)
(うち特定資産(6)への充当額)		(393,000)
正味財産合計		1,723,546
負債及び正味財産合計		1,983,512

※地域開発援助・委託援助事業費の内訳(アドボカシー費1,008千円除く)については、P27-28の支援事業一覧をご覧ください。
※※正味財産の内訳は、資産・負債の部の状況のⅢ.正味財産の部を参照ください。
(1)～(7)については、次ページからの「会計報告の注記」を参照ください。
特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは2017年度財務諸表等(2016年10月1日より2017年9月30日まで)について、以下の監査を受けています。
2017年11月13日 石川康彦公認会計士事務所による監査
2017年11月22日 監事による監査

【数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン(P3-4)について】

- 「資金の集め方」は、上記会計報告の「経常収益合計(A)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
チャイルド・スポンサーシップ募金:「受取スポンサーシップ募金」
その他募金・寄付金:「受取その他募金・寄付金」
補助金等:「受取補助金等」
その他:「受取会費」「基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益」
- 「資金の使い方」は、上記会計報告の「経常費用合計(B)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
現地事業活動のため:「地域開発援助事業費」「人材派遣費」
広報活動のため:「啓発教育費」
団体の運営・管理のため:「管理費」

会計報告の注記

●重要な会計方針の要約

- 1) 財務諸表の作成基準：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは「公益法人会計基準」(公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議申合せ 平成16年10月14日)に基づいて会計処理および財務諸表の作成を行っています。
- 2) 固定資産の減価償却について：定額法による減価償却を実施し、償却額控除後の価額を表示しています。
- 3) 引当金の計上基準：
賞与引当金:職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上しています。
退職給付引当金:職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務および年金資産に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しています。
- 4) 消費税等の会計処理：消費税等の会計処理は、税込み経理方式によっています。

(1) 受取その他募金・寄付金の内訳 (単位：千円)

児童保護募金	71,261
うち誕生日記念募金	35,543
ラブ・ローフ募金	14,963
うちラブ・ローフ募金	2,131
うちヤマザキ「ラブ・ローフ」募金	12,832
緊急援助募金	27,741
うちイラク国内避難民緊急支援募金	445
うち緊急食糧援助募金	2,376
うちシリア難民/シリア緊急支援 募金	21,523
クリスマス募金	3,107
水と食糧のための募金	94,532
夏期募金	2,890
難民支援募金	47,529
プロジェクト・サポーター	51,230
プロジェクト・サポーター(難民支援)	430
ラオスの子どもたちのための募金	66,829
特別プロジェクト募金	197,554
物資の受入	2,133
その他の募金・寄付金	8,541
受取その他募金・寄付金合計	588,740

(2) 受取補助金等の内訳 (単位：千円)

政府系機関からの受取補助金等	207,732
外務省 日本NGO連携無償資金協力	183,463
東ティモール/ボボナロ県における水・衛生環境改善事業(3年次)	-497
エチオピア/アムハラ州妊産婦・新生児の健康改善事業(1年次)	28,463
エチオピア/アムハラ州妊産婦・新生児の健康改善事業(2年次)	38,647
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途35,547千円保有しています。)	
バングラデシュ/シレット県ゴワインガット郡 コミュニティと取り組む水・衛生環境改善事業(1年次)	37,785
バングラデシュ/シレット県ゴワインガット郡 コミュニティと取り組む水・衛生環境改善事業(2年次)	31,399
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途30,782千円保有しています。)	
ネパール/ドティ郡学校・コミュニティ防災事業	21,975
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途12,124千円保有しています。)	
カンボジア/タケオ州における母子健康改善事業	25,691
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途26,419千円保有しています。)	
外務省 NGO相談員制度(平成28年度)	1,430
独立行政法人国際協力機構 草の根技術協力事業	22,839
ルワンダ共和国東部州における小規模生産者グループの経済活動及びマネジメント向上支援プロジェクト	17,180
メコン地域人身取引被害者支援能力向上プロジェクトの広域化活動に関する調査	5,659
民間団体からの受取助成金等	215,110
特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム	214,469
南スーダン/西エクアトリア州教育支援事業	-7,872
南スーダン/タンブラ郡教育システムにおけるレジリエンス強化事業2	23,318
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途96,611千円保有しています。)	
南スーダン/ワラップ州飢饉対応における栄養支援事業	55,952
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途3,147千円保有しています。)	
ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業2	-100
ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業4	23,176
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途33,606千円保有しています。)	
ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人への緊急越冬支援	123,418
エチオピア南スーダン難民キャンプでの教育環境整備事業(フェーズ4)	-9,114
エチオピア南スーダン難民キャンプでの教育環境整備事業 第2期	5,691
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途114,759千円保有しています。)	
公益財団法人ウェスレー財団	641
小中高生対象グローバル教育プログラム支援金	641
国際機関からの受取委託金等	644,131
国連児童基金(UNICEF)	65,072
国連世界食糧計画(WFP)	478,004
うち、受取委託物品	299,122
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	81,523
南スーダン保健合同基金	19,532
受取補助金等合計	1,066,973

マイナス表記となっている収入は、昨年度以前に受け取った補助金等を精算した際の返金額です。

(3) 人材派遣費

人材派遣費とは、地域開発援助事業等の事前調査・視察・調整のための短期調整員・駐在員・海外契約スタッフ・外部専門家派遣に関わる費用です。

(4) 各種啓発教育費の内訳 (単位：千円)

	啓発教育費合計	うち東日本分
広告費	359,242	0
各種広告費	324,873	
パンフレット等印刷費・通信運搬費他	34,369	
広報費	26,573	0
年次報告書(2016年度版)制作・発送費等	2,841	
団体ホームページ制作費等	11,514	
その他の広報活動費	12,218	
ニュースレター制作・発送費等	24,461	0
チャイルド・スポンサーおよび寄付者への連絡物制作・発送費等	33,565	0
その他啓発費等	5,535	0
グローバル教育活動・学校訪問等の費用	1,597	
ラブ・ローフ募金箱の製作・運搬費等	1,156	
活動報告会	1,474	
その他の啓発活動費	1,308	
各種啓発教育費合計	449,376	0

(5) 事業管理費等の内訳、および集計 (単位：千円)

事務局の運営に関わる事業管理費等は、以下の3つの科目に分けて計上しています。

地域開発援助事業管理費(以下、地開管理費)：地域開発援助事業に直接かかわる国内管理費
啓発教育事業管理費(以下、啓発管理費)：啓発教育事業に直接かかわる国内管理費
管理費(以下、管理費)：その他一般の国内管理費

各管理費の内訳、および内訳ごとの集計は以下の通りです。

	事業管理費等合計	地開管理費	うち東日本分	啓発管理費	管理費
人件費等	386,063	125,883	1,611	192,506	67,674
会議費	5,155	1,953	29	1,388	1,814
旅費交通費	16,679	5,313	59	8,421	2,945
賃借料	65,791	20,742	306	33,798	11,251
支払手数料	85,894	2,026	5	81,005	2,863
その他の管理費	49,970	15,547	184	26,131	8,292
合計	609,552	171,464	2,194	343,249	94,839

人 件 費 等：職員等の給与手当、法定福利費等。なお2017年9月30日現在、職員79名、嘱託・アルバイト5名が在職
会 議 費：ワールド・ビジョン・パートナーシップ内等の国際会議出席のための渡航費用、その他国内会議費用
旅費交通費：職員の通勤費、事務ボランティアの方の事務所までの交通費等
賃 借 料：事務所家賃
支払手数料：入金にかかる口座引落およびクレジット決済等の手数料、銀行・郵便局等金融機関の振込手数料等

(6) 特定資産の内訳 (単位：千円)

補助金・助成金引当資産(指定正味財産)の内訳	
NGO連携無償助成金エチオピア2年次事業分	35,547
NGO連携無償助成金バングラデシュ2年次事業分	30,782
NGO連携無償助成金ネパール事業分	12,124
NGO連携無償助成金カンボジア事業分	26,419
ジャパン・プラットフォーム助成金南スーダンタンブラ郡第2期事業分	96,611
ジャパン・プラットフォーム助成金南スーダンワラップ州事業分	3,147
ジャパン・プラットフォーム助成金ヨルダン第4期事業分	33,606
ジャパン・プラットフォーム助成金エチオピア第2期事業分	114,759
補助金・助成金引当資産合計	352,995
当年度までに受領した上記事業にかかる補助金のうち、2018年度以降に支出を予定している金額です。	

地域開発援助事業引当資産の内訳	
スポンサーシップ地域開発援助事業引当資産(7)	241,000
一般募金による地域開発援助事業引当資産(1)	142,000
緊急援助事業引当資産(7)	10,000
地域開発援助事業引当資産合計	393,000

(7)チャイルドスポンサーシップによる事業(以下SP事業とする)に用途を特定した資産であり、
2018年度以降のSP事業、為替相場変動によるSP事業への影響回避のための準備金、SP事業における緊急事態(緊急医療・自然災害・火災等)対応への準備金として、支出を予定しています。
(1)SP事業以外の地域開発援助事業(緊急復興支援事業含む)に用途を特定した資産であり、
2018年度以降に支出を予定しています。
(7)大規模な自然災害や紛争の発生時の、初動の緊急支援活動のための準備金です。

特定事業引当資産(指定正味財産)の内訳	
地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム2年次以降事業分	411,066
特定事業引当資産合計	411,066

その他特定資産の内訳	
退職給付引当資産	104,649
その他特定資産合計	104,649

(7) その他の固定資産の内訳 (単位：千円)

建物附属設備	8,208
什器備品	9,495
ソフトウェア	15,191
電話加入権	373
敷金	39,301
その他の固定資産合計	72,568

(8) 保証債務等

当団体は保証債務等の責は一切負っておりません。

(9) 為替レートについて

ワールド・ビジョン・パートナーシップでは、現地の地域開発援助事業等は米ドルにて予算管理を行っており、為替予約等によって、為替相場の変動による事業への影響をできるだけ抑えるよう努めています。
2017年度(2016年10月1日～2017年9月30日)の地域開発援助事業費の総平均レートは、1米ドル=113.56円でした。

監査と情報公開

ワールド・ビジョン・ジャパンでは、会計および業務全体に関して2名の監事による内部監査とともに、外部の独立した公認会計士に依頼して会計監査を受けています。その会計報告の概要は、年次報告書やホームページで公開しています。また、特定非営利活動法人および認定NPO法人としての事業報告書等を、所轄庁である東京都に提出し、情報公開を行っています。
ワールド・ビジョン全体としては、内部に監査機関を設置し、各国のすべての事務所が最低でも3～5年に一度、事務所全体の業務監査と会計監査を受けることになっています。もし監査の過程で疑義等が発生した場合は、その都度適切な対応を行います。

2017年度 支援事業一覧

国名		プロジェクト名	チャイルド・スポンサー シップによる支援額	その他募金による支援額	助成金・委託金による 支援額	合計	受益者数（人）	支援 チャイルド数（人）
海外支援								
東 ア ジ ア	カンボジア	ボニヤー・ルウ地域開発プログラム	24,949,927			24,949,927	20,000	1,100
		トモ・プオ地域開発プログラム	32,162,073			32,162,073	8,015	1,500
		ボレイ・チュルサル地域開発プログラム	33,630,165			33,630,165	27,106	1,500
		タケオ州における母子健康改善事業		6,259,469	23,895,442	30,154,911	239,656	
		サンプール保健センター新築支援事業		8,990,326		8,990,326	7,947	
	ラオス	旧バランサイ地域開発プログラム		17,323,290		17,323,290	10,000	
		旧タハントン地域開発プログラム		17,323,290		17,323,290	12,000	
		旧バクサン地域開発プログラム		6,776,294		6,776,294	12,000	
	モンゴル	ハイラアスト地域開発プログラム	55,657,998			55,657,998	52,442	2,300
		ハヤン・ウルギー地域開発プログラム	60,540,279			60,540,279	18,000	2,300
	ミャンマー	タバウン地域開発プログラム	34,971,450			34,971,450	30,000	1,700
		洪水被災地支援事業 ※エーヤワディー管区タバウン郡区		1,335,395	11,664,472	12,999,867	689	
		カチン州における IDP への食糧支援事業		1,039,397	14,553,241			
		※カチン州ウェイモン、チブウェ、およびブタオ・タウンシップ			1,746,367	物	17,339,005	7,782
		洪水・土砂崩れ復興支援		2,556,456	8,056,567	物	10,613,023	1,987
	タイ	チョーク・タウンシップにおける弱い立場におかれた人びとへの食糧保障事業		795,947	10,401,785	物	11,197,732	732
		メリー・コーン村就学前教育センター建築支援事業		1,098,874		1,098,874	616	
		トワンワ地域開発プログラム	27,005,854			27,005,854	14,500	1,200
		タバライ地域開発プログラム	21,896,639			21,896,639	36,285	1,200
		バンエン地域開発プログラム	34,757,449			34,757,449	12,000	1,300
南 ア ジ ア	ベトナム	チャンエン地域開発プログラム	30,750,688			30,750,688	18,000	1,400
		ムオンチャ地域開発プログラム	29,012,815			29,012,815	11,000	1,500
		トアンザオ地域開発プログラム	30,393,480			30,393,480	13,900	1,500
		ホイ・ラン幼稚園調理場建設支援事業		1,097,142		1,097,142	410	
		カ・ティン・ハ幼稚園建設支援事業		2,930,292		2,930,292	278	
	インド	ビエン・ソン小中学校宿舍建設事業		2,563,847		2,563,847	100	
		ホイ・ラン幼稚園建設支援事業		2,270,968		2,270,968	316	
		ケ カイ村幼稚園教室増設支援事業		2,887,215		2,887,215	130	
		カルマカンダ地域開発プログラム	39,925,333			39,925,333	57,300	1,300
		フルバリア地域開発プログラム	72,591,514			72,591,514	165,301	3,500
	バングラデシュ	ピロル地域開発プログラム	62,065,768			62,065,768	138,822	3,000
		ピルゴンジ地域開発プログラム	54,443,636			54,443,636	73,600	2,500
		バングラデシュ、フルバリア郡、栄養改善プロジェクト			206,840	物	206,840	15,937
		シレット県ゴワインガット郡 コミュニティと取り組む水・衛生環境改善事業（1 年次）		5,579,820	32,181,597	物	37,761,417	90,000
		シレット県ゴワインガット郡 コミュニティと取り組む水・衛生環境改善事業（2 年次）		5,663,331	28,837,049	物	34,500,380	90,000
	インドネシア	地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム支援事業（バングラデシュ）		17,788,363		17,788,363	205,020	
		バングラデシュ人民共和国 水・衛生改善事業 ※ネトロナ県カマカンダ郡		8,571,679		8,571,679	7,000	
		バングラデシュ人民共和国 水・衛生改善事業 ※ロンプール管区ティナスプール県ピロル郡			2,197,748		2,197,748	5,000
		サイタベット地域開発プログラム	31,032,827			31,032,827	42,000	1,400
		キラウ地域開発プログラム	35,020,763			35,020,763	40,000	1,700
東 ア フリ カ	エチオピア	ブドゥコックタイ地域開発プログラム	36,863,961			36,863,961	40,000	1,800
		カンドゥクル地域開発プログラム	14,736,230			14,736,230	35,903	650
		地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム支援事業（インド）		19,934,141		19,934,141	189,200	
		トウナ地域開発プログラム	20,202,305			20,202,305	36,279	750
		西ドティ地域開発プログラム	38,356,073			38,356,073	15,811	1,000
	ネパール	ドティ郡学校・コミュニティ防災事業		7,149,395	18,959,667	物	26,109,062	25,255
		地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム支援事業（ネパール）		13,277,609		13,277,609	25,000	
	ソロモン諸島	ソロモン地震被災者支援		1,154,886		1,154,886	9,105	
	フィリピン	レイテ地域開発プログラム	34,542,987			34,542,987	146,434	1,000
		サマール地域開発プログラム	41,575,896			41,575,896	34,963	1,000
	スリランカ	橋の建設支援事業		3,516,397		3,516,397	744	
		リディマリヤツダ地域開発プログラム	21,249,902			21,249,902	31,503	750
	エチオピア	就学前教育センターにおける衛生環境改善支援事業		1,318,649		1,318,649	265	
		ゴンダール・ズリア地域開発プログラム	65,731,491			65,731,491	115,000	2,800
		デラ地域開発プログラム	65,731,493			65,731,493	100,000	2,800
		エチオピア南スーダン難民キャンプでの教育・水衛生環境整備事業 第 1 期		11,516,235	121,031,778	物	132,548,013	91,984
		エチオピア南スーダン難民キャンプでの教育環境整備事業 第 2 期		316,492	4,779,848	物	5,096,340	58,000
東 ア フリ カ	ケニア	アムハラ州妊産婦・新生児の健康改善事業（1 年次）		4,995,403	21,529,328	物	26,524,731	90,000
		アムハラ州妊産婦・新生児の健康改善事業（2 年次）		11,788,112	33,743,305	物	45,531,417	90,000
		エチオピアのドロア州難民キャンプにおける代替基礎教育（ABE）・成人識字（FAL）事業			20,241,000	物	20,241,000	3,523
		オレントン地域開発プログラム	14,863,383			14,863,383	20,414	800
		イララマタク地域開発プログラム	36,032,443			36,032,443	15,000	1,700
	ルワンダ	キアムボゴ地域開発プログラム	33,447,000			33,447,000	21,712	1,700
		Mother to Mother プロジェクト（シオノギ製品で日本の母を元気にしながら、ケニアの母も健康に）によるケニア共和国における母子保健支援事業（2 年次）		16,346,025		16,346,025	14,612	
		コリファ小学校教室建設事業		4,883,782		4,883,782	500	
		エントントル高校 貯水・水供給設備設置支援事業		4,385,102		4,385,102	160	
		イルキマティ小学校建設支援事業		3,926,728		3,926,728	300	
	ソマリア	ムタイティ高校施設拡充支援事業		8,173,013		8,173,013	159	
		キラマルジ地域開発プログラム	76,272,829			76,272,829	21,674	3,500
		グウイザ地域開発プログラム	69,484,640			69,484,640	28,903	3,000
		ルワンダ共和国東部州における小規模生産者グループの経済活動及びマネジメント向上支援プロジェクト		14,235,390	13,948,184	物	28,183,574	1,600
		ルワンダ共和国 GS ルカラ・カトリックスクール施設拡張支援事業		8,990,326		8,990,326	1,023	
	ソマリア	ソマリアの脆弱な世帯に対する栄養食糧支援事業			3,444,527	物	25,738,861	68,002
					21,376,431	物		
					2,052,114	物		
		ソマリアにおける脆弱なコミュニティのレジリエンス強化事業		714,412		714,412		
					5,756,866	物		

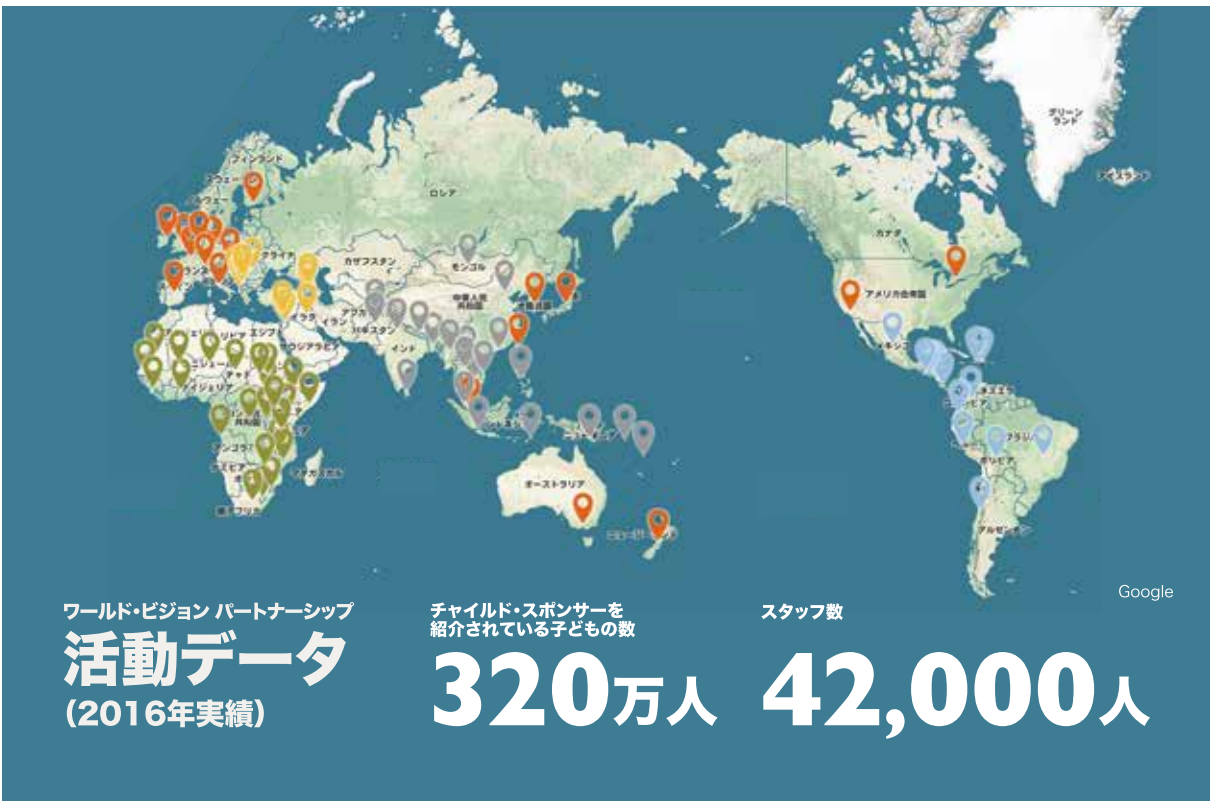
国名		プロジェクト名	チャイルド・スポンサー シップによる支援額	その他募金による支援額	助成金・委託金による 支援額	合計	受益者数（人）	支援 チャイルド数（人）	
東 ア フリ カ	南スーダン	タンブラ郡教育システムにおけるレジリエンス強化事業 1		16,158,428	93,541,851 B	109,700,279	54,000		
		タンブラ郡教育システムにおけるレジリエンス強化事業 2		5,537,489	20,846,131 B	26,383,620	54,000		
		ワラップ州飢饉対応における栄養支援事業		1,948,027	55,194,668 B	57,142,695	354,000		
		西エクアトリア州コンゴ難民・中央アフリカ共和国難民人道支援事業			27,285,432 E	27,285,432	8,540		
		西エクアトリア州コンゴ難民・中央アフリカ共和国難民人道支援事業（上記継続事業）		15,518,319	48,455,597 E	63,973,916	3,561		
		南スーダン・アッパナイル・緊急食糧支援事業		2,309,772	5,450,592 C	88,166,424	319,434		
					80,406,060 物				
		南スーダン・ジュバPoC・緊急食糧支援事業		1,154,886	1,648,690 C	33,659,310	27,090		
					30,855,734 物				
		南スーダン・複数地域における飢饉対応および食糧事情改善事業		2,626,211	2,069,362 C	20,182,312	135,508		
	アッパナイル・緊急期の教育支援事業		5,240,411	20,769,763 D	26,010,174	8,300			
	南スーダン・緊急期の教育支援事業		8,084,202	42,536,585 D	50,620,787	23,496			
	南スーダン栄養・母子保健支援事業		12,703,746	19,532,514 G	32,236,260	60,000			
	スーダン	南ダルフル州国内避難民キャンプとその周辺における食糧配布事業		652,395	728,721 C	8,838,432	268,077		
					7,457,316 物				
		南ダルフル州国内避難民キャンプとその周辺における食糧配布事業（上記継続事業）		4,336,712	2,061,762 C	69,008,038	376,492		
					62,609,564 物				
		南ダルフル州における学校給食事業		404,210	521,025 C	8,155,261	77,668		
					7,230,026 物				
	南ダルフル州における学校給食事業（上記継続事業）		404,210		C	2,258,829	99,310		
				1,854,619 物					
タンザニア	ムゲラ地域開発援助プログラム	55,295,942			55,295,942	38,809	2,800		
	コロワ地域開発援助プログラム	54,325,837			54,325,837	37,446	2,000		
	ムキンガ地域開発プログラム	57,434,098			57,434,098	106,837	2,000		
	タンザニア（アフリカ）ノ水衛生改善支援事業（1年次/2年間）		5,084,503		5,084,503	4,002			
	ナラウエヨ・キシータ地域開発プログラム	46,528,278			46,528,278	43,026	1,400		
	キルヤンガ地域開発プログラム	36,301,301			36,301,301	48,826	2,200		
ウガンダ	ウガンダノ食料確保・生計向上事業（1年次/2年間）→干しバナナ・干し芋プロジェクト→		5,084,503		5,084,503	13,200			
	トヨタ地域開発プログラム	70,051,227			70,051,227	58,080	3,000		
南 ア フリ カ	コンゴ民主共和国	カンボバ地域開発プログラム	60,043,909		60,043,909	31,679	3,000		
		ムワンソ小学校支援事業		3,112,071		3,112,071	284		
	マラウイ	クジェンガ小学校建設支援事業		7,352,004		7,352,004	376		
		クーユ地域開発プログラム	64,775,246			64,775,246	18,926	3,100	
	スワジランド	ムジンバ県チンディンディン中学校における女子教育促進支援事業		4,734,455		4,734,455	112		
		シェウラ地域開発プログラム	72,963,040			72,963,040	15,000	3,000	
		ゲゲ地域開発プログラム	48,267,651			48,267,651	21,000	2,300	
		シェウラ地域における飲料水支援事業		2,701,625		2,701,625	13,000		
		ゲゲメソジスト小学校における校舎増築支援事業		3,660,989		3,660,989	172		
		コルタ地域開発プログラム	41,686,650			41,686,650	10,303	1,900	
エクアドル	ブンガラ地域開発プログラム	40,427,362			40,427,362	7,000	1,700		
	エクアドル地震被災者支援		41,460		41,460	50,000			
エルサルバドル	ティエラ・ヌエバ地域開発プログラム	29,103,127			29,103,127	5,500	1,600		
	サンアグスティン地域開発プログラム	32,914,251			32,914,251	4,500	1,800		
中 南 米	アフガニスタン	地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム支援事業（アフガニスタン）		19,934,372		19,934,372	64,500		
		子どもたちへの手編みセーター等配布事業		61,440		61,440			
	イラク			3,386,810	物		3,448,250	2,257	
		クルド人自治区におけるシリア難民に対する現金給付支援事業		1,920,806	63,380,520 C	65,301,326	38,169		
		クルド人自治区におけるシリア難民に対する現金給付支援事業（上記継続事業）		1,154,886	18,603,008 C	19,757,894	65,000		
		クルド人自治区における国内避難民（IDP）に対する現金給付支援事業 ※アルビル、ソラン、シャクラフ		404,210	17,755,145 C	18,159,355	99,977		
		クルド人自治区における国内避難民（IDP）に対する現金給付支援事業 ※アルビル、ソラン、シャクラフ（上記継続事業）		1,533,920	12,669,489 C	14,203,409	120,000		
		クルド人自治区における国内避難民（IDP）に対する緊急食糧支援事業 ※ドホーク、ニネフ		3,205,386	1,722,799 C	49,865,764	120,000		
					44,937,579 物				
		ドホーク州における食糧支援事業		2,523,079	2,098,262 C	24,025,726	1,275,000		
ヨルダン				19,404,385 物					
	シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業3		7,819,391	42,018,597 B	49,837,988	1,005			
	シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業4		3,025,680	21,406,360 B	24,432,040	940			
	シリア難民およびヨルダン人への緊急越冬支援		11,174,482	115,197,071 B	126,371,553	4,500			
チャイルド・スポンサーシップ特別募金			398,781			398,781			
緊急援助基金				31,220,379		31,220,379			
グローバル・センター 運営管理費			280,856,726	42,476,938		323,333,664			
前年度終了事業等にかかる精算額・補填額				-5,357,063	-26,191,147	-31,548,210			
為替換算調整額			-3,181			-3,181			
海外支援事業費合計			¥ 2,271,269,536	¥ 485,924,487	¥ 1,277,951,227	¥ 4,035,145,250	7,069,238人	86,950人	
国内支援									
日本	東日本大震災緊急復興支援事業		6,096,986			6,096,986	140		
	熊本地震緊急支援事業		1,560,200			1,560,200	100		
総合計						¥ 4,042,802,436	7,069,478人	86,950人	

ワールド・ビジョンについて

ワールド・ビジョンは、約100カ国で活動する世界最大規模の国際NGOです

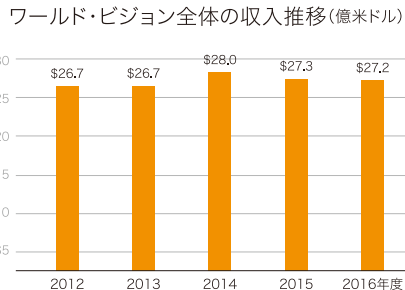
ワールド・ビジョンの始まり

ワールド・ビジョンの活動は、アメリカ生まれのキリスト教宣教師ボブ・ピースによって始められました。第二次世界大戦後、混乱をきわめた中国に渡ったボブ・ピースは、「すべての人々に‘何かかも’はできなくとも、誰かに‘何か’はできる」と考えるようになりました。中国で出会った一人の少女の支援を始めた彼は、より多くの支援を届けるため、1950年9月、アメリカのオレゴン州で「ワールド・ビジョン」を設立。朝鮮戦争によって両親を亡くした子どもたち、夫を亡くした女性たち、ハンセン病や結核患者に救いの手をさしのべることから始まり、現在は世界の子どもたちのために、「開発援助」「緊急人道支援」「アドボカシー」の3つを柱に、約100カ国で活動しています。



組織と運営

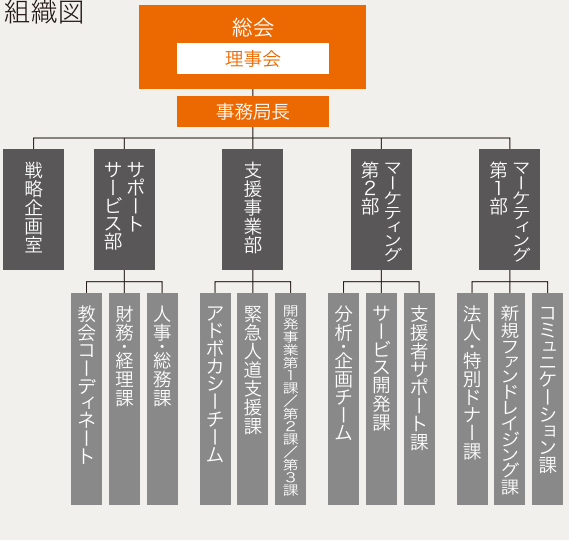
ワールド・ビジョン・パートナーシップにおいて、日本を含む支援国では、各国で独自に総会・理事会を持ち、その国のワールド・ビジョンの運営に関する責任を負っています。通常は、総会・理事会のもとに事務局が置かれ、実際の運営を行います。最終的な責任はその国の総会・理事会が持っています。ワールド・ビジョン全体に関わる方針や事業計画、予算等については、各地域から選出された理事で構成される国際理事会で決定されます。このほか国際理事会では、新たに活動を始める国や活動を終了する国の承認も行います。国際理事会のもと、ワールド・ビジョン・パートナーシップ事務局が、各国・各地域間の調整業務や技術的サポートを行っています。



ワールド・ビジョン・ジャパンについて

ワールド・ビジョンは1960年代、日本でも両親を亡くした子どもたちが生活する施設等を通じて支援活動を行いました。その後、日本の経済成長と内外の海外支援に対する気運の高まりとともに、1987年10月に「ワールド・ビジョン・ジャパン」が設立され、独自の理事会を持つ組織として活動を開始しました。1999年に特定非営利活動法人の認証を得、法人格を持つ民間援助機関としてその歩みを進めています。2002年5月、国税庁より「認定NPO法人」に認定され、これ以降、当団体への寄付金は税制上の優遇措置を受けられるようになりました。また、その後のNPO法改正を受け、2014年8月には東京都より改めて認定されています。2017年10月、設立30周年を迎えました。これまでの歩みを支えてくださった皆さまに、心より感謝を申し上げます。

組織図



役員・親善大使 (全員無給です)

- 名誉会長 峯野龍弘 (ウェスレアン・ホーリネス教団 淀橋教会牧師)
- 理事長 榊原 寛 (お茶の水クリスチャンセンター副理事長)
- 副理事長 飯島延浩 (山崎製パン株式会社代表取締役社長)
- 理事 新川代利子 (ウェスレアン・ホーリネス神学院助教授)
- 理事 安西 愈 (弁護士)
- 理事 小西孝蔵 (前農林中央金庫常任監事)
- 理事 樋口紀子 (梅光学院学院長・学長)
- 理事 三木晴雄 (玉の肌石鹸株式会社代表取締役会長)
- 理事 村上宣道 (一般財団法人太平洋放送協会名誉会長)
- 監事 中島秀一 (日本イエス・キリスト教団 荻窪栄光教会牧師)
- 監事 日暮道生 (栄香料株式会社取締役会長)

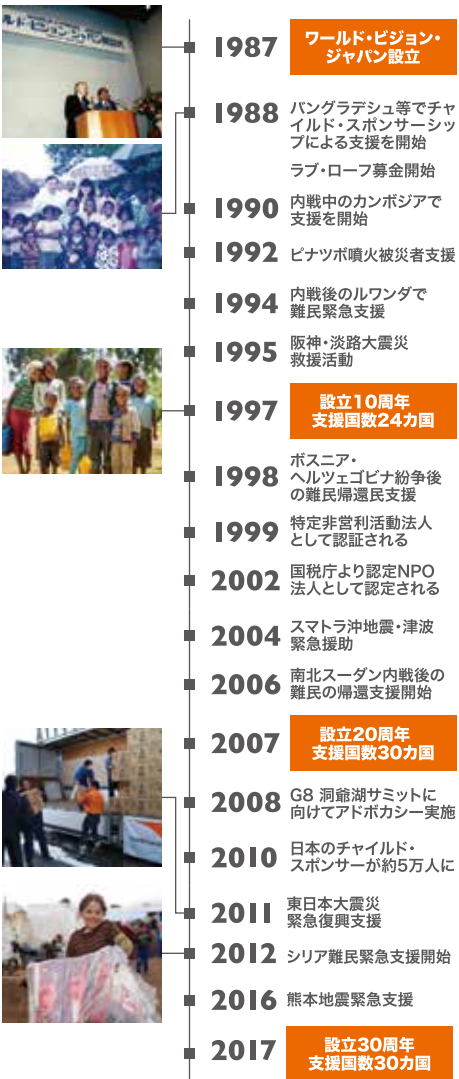
- 親善大使 ジュディ・オング (歌手・女優・木版画家)
- 親善大使 酒井美紀 (女優)

事務局長・常務執行役員

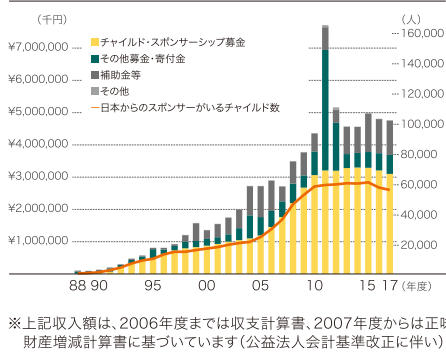
- 事務局長 木内真理子
- 常務執行役員 片山信彦

2018年2月1日現在

30年の歩み



30年間の収入とチャイルド数の推移



※上記収入額は、2006年度までは収支計算書、2007年度からは正味財産増減計算書に基づいています(公益法人会計基準改正に伴い)